

土木学会 コンクリート委員会
平成 29 年度 第 1 回規準関連小委員会議事録（案）

- 日 時：平成 29 年 6 月 16 日（金）14：00～17：00
- 場 所：土木学会講堂
- 出席者（敬称略）：久田委員長，横関幹事長，上田，氏家，小川，片平，川西，蔵重，坂本，田中，中村，平塚，堀口，正村，皆川，森，山口，渡辺
- 配布資料
 - 6-0 議事次第
 - 6-1 第 5 回規準関連小委員会議事録（案）
 - 6-2 委員会活動報告(2016.6-2017.5)，平成 29 年度委員構成案，作業部会メンバー表
 - 6-3 HP 問合せ対応一覧
 - 6-4 土木学会規準（コンクリート委員会制定）の制定／改訂に関する規定（案）
将来構想 WG の活動方針
 - 6-5 補修性能の照査に必要な規準の現状と課題(補修材料 WG)
 - 6-6-1 PE シースに関する試験方法改定に関するヒヤリング結果報告(鋼材，補強材 WG)
 - 6-6-2 PC 用シースに関する規準類の比較表(鋼材，補強材 WG)
 - 6-7-1 JSCE-C 502-2013「海砂の塩化物イオン含有率試験方法（滴定法）（案）」について(セメント，水，骨材，混和材料 WG)
 - 6-7-2 コンクリート標準示方書〔規準編〕の変遷（海砂の塩化物イオン含有率試験方法）(セメント，水，骨材，混和材料 WG)
 - 6-7-3 海砂の塩化物イオン含有率試験方法（滴定法）（案）(JSCE-C 502-2013)【原文】(セメント，水，骨材，混和材料 WG)

●議事

1. 久田委員長挨拶

久田委員長から「本委員会の活動を 1 年延長することが全体委員会で承認されたので，規準編発刊に向けて引き続き活動をお願いしたい」という旨の挨拶がなされた。

2. 前回議事録確認【資料 6-1】

横関幹事長より，前回議事録（案）を報告いただいた。修正意見はなかった。

3. 委員延長願い，メンバー表確認【資料 6-2】

横関幹事長より以下の通り報告があった。

- ・当委員会活動の 1 年延長が承認された。
- ・委員交代：内田委員→辻本委員
- ・規準編改訂・示方書連携 WG のうち，補修材料 WG に高谷委員を追加

4. 土木学会 HP への問合せ対応報告【資料 6-3】

横関幹事長より、前回委員会以降の問合せは大きく分けて以下の 3 つであり、それぞれ資料の通り回答したことが報告された。

①G 552 : SFRC の曲げ試験・・・前回委員会からの継続

②F 531 : JP ロート, JA ロート, J14 ロートの校正, 相関性など

③G 504 : テストハンマー強度の $\angle R$ 算出方法

②に関して、「JP ロートの校正を土木学会として実施すれば、学会に収入が入るので良いことではないかと土木学会に聞いてみたが、そもそもそういった機関がないので出来ないとの回答があった。そのため、HP での質問に対して、もやっとした回答となってしまっている」と補足説明があった。

③に関して、「テストハンマーの曲線に関してはこれまでも問い合わせが多数あることから、JIS との関係があるが、曲線式をどうするか等、一度硬化 WG で議論してほしい」という意見があった。

5. 各 WG 活動報告

5. 1 将来構想 WG【資料 6-4, 6-5】

5. 1. 1 土木学会規準（コンクリート委員会制定）の制定／改訂に関する規定（案）

上田主査より説明があった。主な質疑は以下のとおり。（以下、Q：質問、A：回答、C：意見）

(Q1)この規定をどこに残しておくか。

→(A1)そもそも規定が明文化されていなかったのが明文化するというのが作成の経緯であり、常任委員会に上程して、委員会の規定にするか、規準関連小委員会の内規にするかを議論していただくことにしたい。

(Q2)2. (1)～(4)を見ると、提案者と対応 WG とのやりとりは 1 回だけと読めるが。

→(C2-1)過去の事例では、何度か修正したうえで、Ver.2 や 3 が出来るというプロセスであり、提案者と対応 WG、小委員会とで複数回やり取りがあるという内容に修正してほしい。

→(C2-2)また、提案者と対応する WG に加えて、その内容に精通した有識者を入れた傘下 SWG を作ったこともあるので、(2)で「対応 WG においては、提案者および適宜メンバーを追加する」などを追記してほしい。

→(A2)修正する。

(Q3)提案された内容が全て規準化される、とも読めるので、全て規準化されるわけではないということを書き加えてほしい。

→(A3)「提案された内容を審議するかどうか判断した上で」といった文言を加える。

(C4)①2. (2)で、他の学協会あるいは関係機関などへの意見照会も行う旨を追記してほしい。

②2. の手順は、提案された内容の成熟度にもよるので、この手順は「標準とする」とすればよい。

③2. (2)～(8)にある、Ver.1～3 の前に「原案」をつける ⇒JSCE 規準原案 (Ver.1～3)

Ver.1～3 が取れた (9) の時点で成案となり、JSCE 規準 (案) となる。

→(A4)上記を踏まえて修正する。資料提出時期は別途決定する。

5. 1. 2 将来構想 WG の活動方針

上田主査より説明があった(資料 6-5 の補修材料 WG での検討分を含めて)。主な質疑は以下のとおり。
(C1)2007 年版の改訂資料(コンクリートライブラリー129)において、どういう規準がないので今後検討が必要であるという資料を作成しているので、参考にしてほしい

(Q2)Torrent など表層品質に関する規準はどうするか。

→(A2)規格値が出来ない限り、規準としては難しい。

(C3)本質的に、規格体系はこのままでよいのか、という議論もある(今回の改訂作業では間に合わないが)。他示方書(設計、施工、維持管理)でこういう規準があれば取り入れることとし、現状で取り入れられない規準類をどうまとめていくか、背景・方針を含めて、WG の中で議論してほしい

→(A3)性能照査の観点から、現在の規準体系の課題点や今後制定すべき規準類について取りまとめるという方針で作業を進める。この際、本委員会の各 WG からもこのような観点からご意見をいただきたい。これらの成果は示方書[規準編]の改訂資料の一部となる予定である。

5. 2 セメント、水、骨材、混和材料 WG 【資料 6-7-1~6-7-3】

片平主査、森委員より、主に JSCE-C 502 に関する説明があった。主な質疑は以下のとおり。

(Q1)どういう方向に持って行きたいか。

→(A1)空試験で使用する硝酸銀溶液濃度を規定せず、分析者の判断に任せて頂きたい。

→(Q1-2)であれば、新旧対照表を作成してほしい。その方が議論しやすいので。

(C2)JIS の改訂作業中で、JIS A 5002(構造用軽量コンクリート骨材)のモール法をなくす方向で検討中である。

(C3)JIS A 1154(硬化コンクリート中に含まれる塩化物イオンの試験方法)では、想定される塩化物イオン濃度に合わせて硝酸銀溶液の濃度を 0.005mol/L, 0.01mol/L, 0.1mol/L の中から適切に選定する。空試験を行って試料で得られた電位差滴定量を補正するとの記載はあるが、空試験に用いる硝酸銀濃度の規定はない。

(C4)ブランクの測定は、昔は蒸留水であったが、今はイオン交換水となり、電気抵抗を測定すれば塩化物イオン濃度がわかるので、JIS から削除されたという経緯がある。

⇒【総括】修正作業を進めてもらい、新旧対照表を作成して、次回委員会で議論する。

5. 3 鋼材、補強材 WG 【資料 6-6-1~6-6-2】

中村委員より、PE シースに関する試験方法改定に関する説明があった。

- ・JPCI-A001~A004 は、できれば土木学会規準に入れてほしいというのが PC 工学会の要望。
- ・土木学会規準を改訂し、JPCI-A のエッセンスを取り入れることとする。

主な質疑は以下のとおり。

(C1)先日関係機関に送付した書面では、「土木学会の試験方法を廃止」となっているが、そうではなく、取り入れて改訂という方向である旨、もう一度関係機関にアンケートを送付してほしい。

(C2)PC 工学会の要望であれば、PC 工学会から土木学会へ規準改訂の依頼が必要ではないか。

→(A1~A2)上記内容を再度 WG 内で検討して実施する。

⇒【総括】修正作業を進めてもらい、新旧対照表を作成して、次回委員会で議論する。

6. 今後のスケジュール

- 常任委員会の今年度開催日：7/11, 10/23, 12/20, 2/16
- 常任委員会の開催日程を踏まえて、今年度末にはひとまず冊子バージョンを完成させることとする。
→ 次年度上半期に改訂版を出版、のイメージとする。

↓

10/23 の常任委員会で「目次案」「新旧対照表」を提出

↓ 指摘事項を修正

12/20 の常任委員会で指摘事項を反映

↓

2/16 の常任委員会で最終承認

↓

3/末：完成

- 電子化については、著作権や本の売上等とも関連するため、他の示方書(設計, 施工, 維持管理)の動きと連動することとしたい。
- 資料 6-4 の「土木学会規準の制定／改訂に関する規定（案）」については、作業をすすめておく。

● 次回（第7回）規準関連小委員会・・・平成 29 年 9 月 19 日(火)13 時～17 時 に開催

- ・ 各 WG で「目次案」「新旧対照表」を作成して当日配布する。
- ・ 新旧対照表のひな形は、皆川委員より送付する。
- ・ 各 WG の改訂資料は、12/20 常任委員会での資料提出を目指して作成する。
- ・ JIS 改正内容の参照については、平成 29 年 8 月末までの改正分を反映させることとする。

以上
議事録作成：渡辺